

北岡はやと市議の活動報告

(2002年7月～2003年1月)

- ▼7月19日 ◆「市民アンケート」(市政調査費使用)の結果を公表。市の懸案事項について市民意向を確認した。市民の意向が市政に反映されておらず市民の満足度は低いことが検証された。市民の意向を市政に反映する仕組みが必要と痛感。
- 21～23日 ◆文教経済委員会の視察で福岡県の飯塚市と直方市を視察。
- ▼8月4日 ◆「市民と市長との話し合い」(住民投票を実現する会主催；訪欧について)。市長はMOX燃料疑惑の内容や疑惑解明の方法を、十分理解していないと判明。
- 5日 ◆私の個人情報の住基ネットへの提供中止を市に請求。
- 24日 ◆「シユラウド問題勉強会(阪上武講師)」を開催。
- 28日 ◆「止めようプルサーマル市民集会」(住民投票を実現する会)。プルサーマル実施の危機感を持った多くの市民が市内中心部を風船片手にパレードした。手を振って行進に声援を送る通行人が多かった。
- 29日 ◆東電へプルサーマル中止を申し入れ(住民投票を実現する会)。東電はあくまでプルサーマルを実施する強硬な姿勢だった・・・⇒だが同時刻に東電事故隠しが発覚しプルサーマルは頓挫することとなった。
- ▼9月4日 ◆刈羽村長へプルサーマル白紙撤回を申し入れ(住民投票を実現する会)。
- 6日 ◆9月議会の初日、賛同者になっていた「プルサーマル中止決議」が可決。
- ◆英国フィナンシャル・タイムズ記者の東電事件に関する取材を受けた。住民投票や東電事件は、英国(BNFL社)でも関心が高い。
- 11日 ◆議会質問。「東電不祥事・拉致被害者家族の支援・市政アンケート実施の必要性・住基ネット問題・省エネ自然エネルギー促進」について。市民の市政に関する満足度を調査することを検討すると市長よりの答え。
- 20日 ◆東電より市議会へ不祥事調査結果の報告。東電は肝心な情報の公開に応じなかった、反省しているのか疑問。
- 26日 ◆国の原子力安全規制法制検討委員会を傍聴。原発にひびがあっても運転を認める、危険な「維持基準」の法制化を画策していた。会議後、保安院院長と話したが、保安院(国)の問題を認めない無責任な態度。
- ◆国会議員と記者会見。四電伊方原発の発電機土台コンクリートに、重大なひびがあるとの告発を公表。四国電力はすぐ認めた。
- ▼10月4日 ◆国の原子力安全保安院より市議会へ東電事件調査結果の報告。国にも責任があるとの自覚に乏しい説明だった。
- ▼11月17日 ◆第6回市民ネットミニ集会在比角コミュニティで開催、私は原発の内部告発を公表した件について報告。
- 27日 ◆市長らに平成15年度予算への要望内容を説明(市民意向を的確に確認し予算編成に反映することが重要と強調)。
- ▼12月6日 ◆朝日が丘NTTドコモ無線局の件で、ドコモ社と話し合い。電磁波問題の懸念などから無線局の運用延期を申し入れる。
- 9日 ◆12月議会初日、決算を認定しないとの討論をした。反対理由は原発や拉致問題などへの対応が不適切なため。
- 10日 ◆議会で「原発問題と市の懸案事項」について質問。市はまだまだ原子力防災を甘く考えていると感じた。市の奨学金制度創設の要請には、早期実現の見込みが感じられる市長よりの返答だった。



<訪欧で市長に疑惑解明できるのか？追及>



止めようプルサーマル市民集会



東電への申し入れ中、事故隠し発覚



議会での質問風景

☆ 初めて市議会の質問をしてから、まもなく4年経とうとしています。この間、市民の皆さんの真の声を行政に伝えるべく努力してきました。実現できなかった住民投票から4年経って、事故隠しの発覚やもんじゅ判決が続き、危険なプルサーマルに反対したことの正しさを改めて確信しています。 <北岡 はやと>

市民の声

- ▽ プルサーマルの市民運動のせいか、市政への批判の声がハコモノ事業に寄せられるなど。柏崎の市民意識が少しずつ変わっていくようでうれしいです。市民が結集して新しい柏崎をめざしましょう。(S)
- ▽ プルサーマルの不安が東電の不正事件や国の対応で益々増し、推進よりだった私の友人も今は、新しいエネルギーに関心をもち、原発は止める方向にと願っています。(Y)
- ▽ 今、原子力に関して、事業者はもちろん国にも不信を抱いているのは、私たちだけでなく司法サイドも同じ。[原子力、これでよいのか?!] 推進側、反対、経済界、司法それぞれの立場から、見直し論が上がっている。日本の将来、子供の未来のため国民みんなで、ぜひとも考え、話し合いたい!と切望しています。(A子)
- ▽ 「あんな、わざとらしく、一軒、一軒回って・・・他にする事があるだろう」と近所の声、うちにも東電職員の訪問がありましたが、女房の非難の声にたじろいで何も言いませんでした。その迫りに私もたじろいで何もいえませんでした。(気弱な夫)

市民ネット通信

第7号

プルサーマルを考える
柏崎刈羽市民ネットワーク
<http://www.kisnet.or.jp/net>
〒945-1102 柏崎市向陽町 1279-215
電話・FAX 0257-32-8818
発行 2003年3月5日

柏崎刈羽原発の全号機が止まる

8月、長年にわたる東電のトラブル隠し発覚

私達は昨年8月28日、プルサーマル実施近しの緊迫感の中、「止めようプルサーマル市民集会」を開催しました。翌29日、予想だにできなかった衝撃が日本中を走りました。東電トラブル隠し発覚のニュースです。東電は、市、村へ陳謝し、トップ総退陣、..

この大事件のあと、国の監視体制の不備、国と電力業界との癒着、点検結果の改ざん、虚偽報告などが次々と発覚しました。原発推進の人々でさえ不信をつのらせ、国、東電と地域住民との信頼関係は、根底から崩れ去ったのです。国や東電、3首長に対しても責任問題が浮上しました。

この春、全号機(7基)が止まる

それから半年が経過、東電の12基の原発が停止中です。しかし、今も首都圏のネオンは輝いています。「原発がないと停電する」との宣伝は何だったのでしょうか。東電は、今頃になって節電キャンペーンを始めました。私達も浪費を控え節電する事には賛成ですが、東電のキャンペーンの目的は、ひび割れ原発の運転再開です。

東電は徹底した検査は出来ないと言い、国は安全性切捨ての維持基準の導入を目ざし、傷があっても安全性に問題はないと言っています。国は、自治体の希望により交付金を制限なく使えるように変更するなどの側面援助。東電は企業内の閉鎖性など体質改善もないまま、3月に再稼働を目指しています。

運転再開への動き～傷だらけの運転を許すな!

地元では「(仮)原発監視の地域の会」発足の準備会でネットも参加して激論展開中です。県は安全管理技術委員会を設立して、ひびや再循環系配管の点検箇所を確認するとしています。これらの会で本当に原発監視が出来るのかどうか?。東電の企業体質のみでなく、事故や故障を隠した、他の要因についても検討が必要です。例えば作業員の膨大な被曝を前提にしないと十分な点検が不可能だとか、危険箇所や影の部分では技術的に点検や修理が不可能な場所もあるとか・・・。“合理化”を進め、経済性優先の現在の原発では、経費のかかる検査は出来ないから「異常はなかった、ヒビはなかった」ことにしてしまうのでしょうか。

しかも、隠蔽発覚後、東電や国のやっている事は何でしょうか。一部配管の点検のみで、点検は済んだとし、更に点検でヒビがあっても、“維持基準”導入によって、運転に支障はない事にして、運転が再開されようとしているのです。前よりも危険な状態で原発の運転が再開されようとしているのです。傷だらけの原発を止めるための運動は、まさに正念場を迎えています。

私たちは、この機会に地球規模で環境問題を考え、世界の脱原発の潮流を日本でもと考えています。新エネルギーへの転換は、私たちの身近に迫っています。国にも面子を捨ててエネルギー政策の転換に乗り出してもらいたい。今こそ、「傷だらけの原発の運転を許さない」運動をみなさんと共に力強く踏み出す時だと思っています。



東電事故隠しを伝える新聞



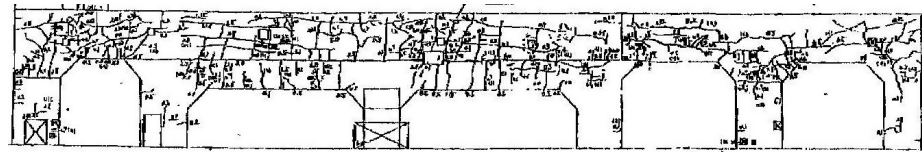
8.28 止めようプルサーマル市民集会

市民ネットのメールマガジン 最新の情報を貴方のPCへ
不定期に最新の情報をお送りしています。申し込みはメルマガ希望と書いてメールで下記まで
hayato@kisnet.or.jp ホームページは <http://www.kisnet.or.jp/net>

市民ネット事務局長・北岡はやと市議に内部告発 <伊方原発> タービンの基礎のコンクリートはひびだらけ##

市民ネットの事務局長の北岡はやと市議あてに、原発についての内部告発がありました。四国の伊方原発で発電タービンを支えるコンクリートの台がひびだらけだということです。原子力資料情報室主催で北岡市議らと、国会議員で合同記者会見を行い、直後に四国電力は事実を認めましたが、まさにひびだらけです。タービンは原子炉とつながっており、高速回転していますから万一の場合は致命的な事故につながる可能性があります。

バブル期の工事では、コンクリート用に海砂の利用(塩害)やジャブコン(水が多くて工しやすいが、強度に問題)などによりコンクリートの強度に不安がもたれています。柏崎にも共通する不安です。

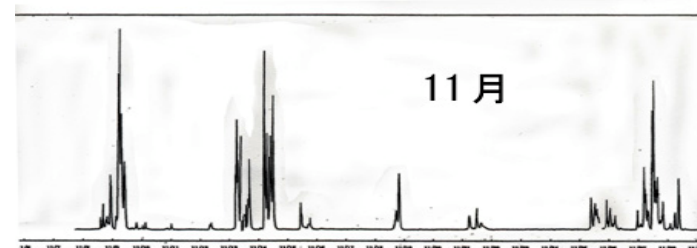
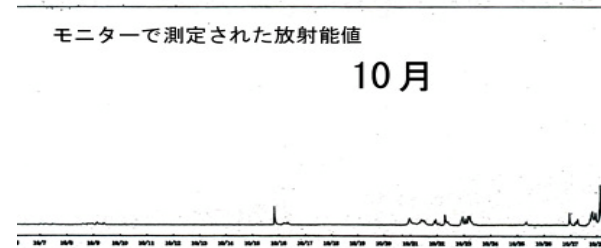


公開されたヒビワレの図

柏崎刈羽原発の排水口から異常な量の放射能検出

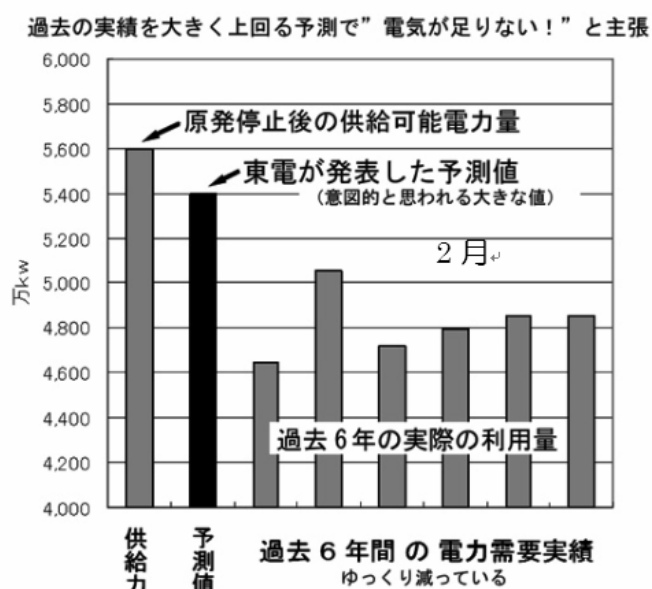
事の発端は、去年の11月、新潟県のホームページに載せられている環境放射線監視システムの海水のデータが、急上昇していることを発見したことでした。(下図)排水口での放射能は、これまで平均 500cpm 程度で、最高でも毎年 2-3000cpm 程度でしたが、2002 年 1 月に 6328 を記録。11 月 9 日 9362、14 日 8370、27 日 7023 と異常値が続けて出現していたことがわかりました。県は「南排水口に接続している1、2、3号機が停止しているために、放水量が少なくなり、この結果、相対的に降雨等に含まれる自然放射能の影響が強くなった。」とのことでした。しかし、降雨量と放射能数値が相関しないこと、3機停止後2ヵ月も経ってから異常値が続出していること、1985-90年までは1号機のみ運転で、現在と同じ条件であったが、数値上昇は記録されていないことなどの疑問が解決されていません。

市民ネットも参加して12月13日、この事実を記者発表しましたが、現在まで、納得のいく回答は得られていません。そもそも、放射能のモニターを設置する目的は、「放流水の放射線を監視するため」であり、降雨などの影響が出てしまうような設置の仕方では意味がありません。今後も、環境放射能に対して目を光らせていきたいと思っております。



電力危機が訪れる! のゴマカシ

東京電力は、原発の休止によって、電力危機がやってくると宣伝していますが、その資料にとんでもないゴマカシを発見しました。右のグラフは東京電力が発表している2月の電力需要予想と発電能力ですが、その差はわずか200万kwとされています。しかし、よく見て下さい。この予測値は、ここ数年の実際の電力需要に比べてずっと多いのです。節電は賛成ですが、危機感を煽る東電の目的は、電力消費を抑えることでなく、ひび割れ原発を無理しても運転しようということなのです。ウソを言ったり、事実を隠して原発を動かしてきた東京電力の体質が、何一つ変わっていないことを示しているのではないのでしょうか。



もんじゅ裁判で画期的判決

ナトリウムもれ事故により運転停止している高速増殖炉もんじゅに対し、名古屋高裁金沢支部は、国の設置許可を無効としました。判決では、政府の安全審査の在り方に見逃しがたい、過誤、欠落があったと指摘しています。これまで住民がどんなに精緻に安全審査の問題点を解明しても、決してそれを認めなかった裁判所がはじめて安全を守る側に立った判決を下した訳です。この背景には、もんじゅナトリウム漏れや東海村 JCO 事故、東電損傷隠しと続く原子力政策の問題を、裁判所すら認めざるを得なくなっているということです。判決に奥田経団連会長も、エネルギー政策として中長期的に原子力があるのか、要らないのかを考える必要があると、述べています。燃料電池も開発、実用化されようとしている今、原子力政策を見直し、風力・太陽光・バイオマス等の自然エネルギーに方向転換し、普及させていくべきと、市民ネットは考えています。

原発監視?地域の会 市から提案

事故隠しの発覚のあと、東京電力が地域住民の声を聞くとして提案した会は、東電主導ではいけないという事で市に拒否されました。市は独自に、“安全運転を確保する“ために市民の声を聞く会を、市民ネットや原発反対派を含む地元団体の参加で、立ちあげたいと申し入れがありました。これまで3回の準備会に参加しましたが、

- “確認・監視”のための会とする。
- 東電や行政に意見を述べる。
- 東電は会の要請があれば、資料提供・現場確認など可能な限りの協力を行なう。
- 東京電力は会の参加メンバーにはならない
- 会員は25名、定例会は月1回、経費は県費。などという方向で準備が進んでいます。

ネットとしては本会議に参加することを決めましたが、この会が市民のためにならないようであれば、退会も含めて対応を再検討するつもりです。

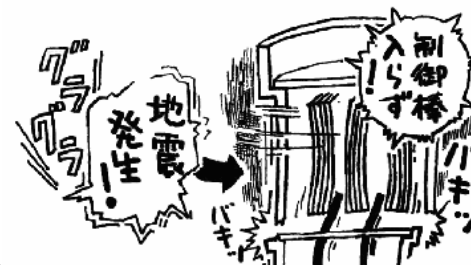
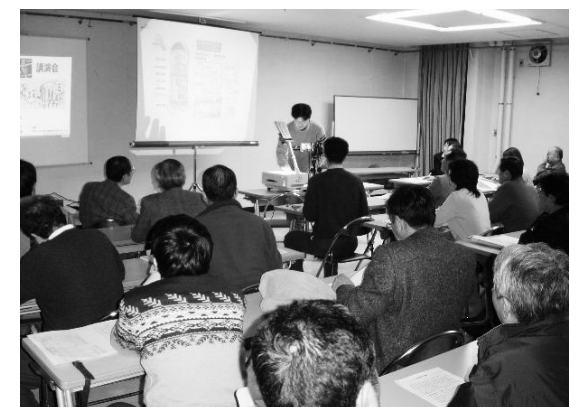
ふくろうの会、阪上氏を迎え

2月8日

「原発の損傷を考える講演会」開催

シュラウドなどのヒビ割れ問題が注目されている中、この問題に詳しい「ふくろうの会(福島老朽原発を考える会)」の阪上武氏を迎えて、講演会を開催しました。

阪上氏は、シュラウドは燃料棒の位置を固定したり、制御棒挿入のガイドにもなっていたりしており、東電が説明する様に水流を調節するだけのものではないと説明。また、冷却水の喪失という事故の際には、最後の頼みの綱である緊急炉心冷却装置により供給される水を、炉心に一定程度保持する役割も担っている。それゆえ、地震などの際、これが壊れた場合、致命的な事態につながるという説明。シュラウドと共にヒビ割れが問題になっている、再循環系のパイプについても、ヒビがあっても一部分のみの検査で



運転が許されていることを指摘し、警鐘を鳴らされました。事故隠しで反省したはずの東京電力がやろうとしているヒビ割れ原発の運転再開(維持基準の導入)が、地域住民の命や安全を考えない暴挙であることを、私たちが改めて再認識し、それをやろうとしている東電の姿勢が、事故隠し前と何も変わっていないことを、またもや思い知らされました。